

---

# 善意は偽善と独善に。

霧夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

善意は偽善と独善に。

### 【Nコード】

N5056A

### 【作者名】

霧夜

### 【あらすじ】

僕が君のためにならない事をするなんてありえない。なのになぜ、君はそんなに恐ろしい？なぜ怒っている？なぜ？

**（前書き）**

もっと怖いホラーにしたかったんですが。  
また一人称です。

僕はあの時、見捨てて逃げた。  
この世でただ一人の、愛しき人を。

ああ。

酷く身勝手なのは解ってるんだけど。  
でも僕は、怖かったんだよ。

本当に本当に、恐ろしかったんだ。

僕という存在の内面は、あの時確かに、恐怖で満たされていたんだ。  
いかなる言葉を用いても表現し得ない感情で、溢れ出す寸前だった。  
言い訳にもならないような戯れ言だと、自分でも解っている。  
死んでしまいそうな程。

僕は、君が怖かった。

だって。

君の指に触れて、知った。

君の指は、氷柱みたいに硬く、冷たかったんだと。

君の顔を見つめて、気付いた。

君の顔は、陶器人形のように、張り付いた表情で、歪んでいたんだと。

君の口を舐めて、悟った。

君の口は、熱い吐息ではなく、鮮紅色の液体を吐き出していたんだと。

だから走って逃げた。  
君を一人置き去りにして、みつともなく逃げた。  
一目散に。

だから、ごめん。  
いい加減許してくれないか。  
謝ろう、頭を下げて。  
何度でも、何度でも。  
君の気が済むまで。  
怖いんだ。

でも僕は、偽りなく君が大好きなんだよ。  
それは嘘じゃない。  
君の今の姿でも、もちろん愛しているよ。

もつとも、僕が君をそんな風にしたんだけど。

そっか。  
だから怒ってるのか。

ああ。怖い。  
やめてくれ。

やめてくれ。

お願いだ。

謝罪なら、幾らでもするから。

心から、僕は君を愛しているんだ。

だからこそその行動だったのに。

そのままの、美しい君でいて欲しいと思って。あんな風に、醜く  
なると知らなくて。

死んだら綺麗なままだと信じてたから、君の首に包丁を突き立てた  
のに。

ああ。

やめてくれ。

君にそんな事は出来ない筈だ。

だって君はもう。

僕が、君を

『ぶつつ  
』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5056a/>

---

善意は偽善と独善に。

2010年12月10日20時33分発行